



### ◎道路改良會北海道支部の

#### 道路技術講習會開催

北海道内各支廳及市町村吏員をして、主として實務に適合する簡易な道路技術上の知識を修得させる爲の第一回道路技術講習會を道路改良會北海道支部主催で開催した。聽講希望者七十名餘の多數に達し、去る二月二十五日から三月五日まで、終了、講習證書の交付されたもの六十六名であつた。因に本講習會は第一回の試みで而も會期僅かに十日間であつたが、出席者は何れも熱心に聽講し豫想外の効果を収めることが出來た。

### ◎大井川橋竣功式

百七十四萬餘圓の工費を、四ヶ年の星霜を閲して工を終へた一號國道靜岡縣志太郡島田町、榛原郡金谷町立會大井川に架設せられた大井川橋の竣功式は去る四月八日午前十時三十分から同橋の東詰に於て盛大に舉行せられた。定刻内務大臣代理丹羽内務書記官、架橋計畫當時の長官たりし關谷宮内次官を始め關係官民三百餘名列席し、祭典は形如く吉岡土木課長の工事報告、長谷川知事の式辭に次で、内務大臣（代理丹羽内務書記官）、關谷宮内次官、道路改良會長（代理都筑專任幹事）、縣會議長、其の他多數の祝辭があつて、式を閉ぢ小憩した後、渡初式に移り、午後一時過滯りなく目出度式を終つた。式後來賓一同は同橋の西詰寄りの河原に設けられた協賛會主催の祝賀會に臨み、宏莊なる新橋の姿を眺めつゝ、祝杯を擧げて舊を語り將來の幸を祝福した。當時は折柄の日曜で、前夜來降りしきつた雨も曉方からカラリミ舞れて春光麗な散策日和にて一層の人氣を

わきた、せ遠近より集まつた観衆は無慮十萬と號せられ橋へ橋へこ向ふ群衆で同地方は空前の大賑を呈した。殊に地元たる島田、金谷兩町の歡喜に充ちた表祝振も亦素晴らしく小學生の旗行列を始めこしいろくの催物があつて全町舉げてのお祭さわぎ、就中金谷町青年の催にかゝる舊幕時代の姿を其の儘なる大井川蓮臺越の實演は興味深く大喝采であつた、また島田町に於ける大井川に關する郷土史料展覽會の開催はまことに時機を得た有益な企であつた。

本橋は既に竣功を告げた富士川、安倍川の兩橋と共に東海道に於ける著大橋梁の一であつて、其の全長五百六十間五分、有效幅員四間、有效高十五尺にして、一徑間長百九十五尺、十七徑間にして各徑間は楯形とし十橋間に區分し中央高三十尺兩端二十尺の拋物線をなすブラット式綱構橋で各部の設計は道路構造令に依り總て耐久耐震の構造をなしたるもので結構の壯、規模の大まことに以て現代交通の實情に適し、之が開通により齎す交通上の利便は至大であつて其の效果に付ては喋々を要せない所である。而して交

通上より見たる大井川の沿革や、本橋設計の詳細に付ては縣當局から紹介せらるゝ筈であるから茲には其の一切を省略する。因に當日内務大臣及道路改良會長から寄せた祝辭は左の通りである。

#### 式 辭

大井川橋架設工成り茲ニ開通ノ式ヲ行フニ當リ多數諸賢の賁臨ヲ辱フシタルハ誠ニ光榮トスル所ナリ

我カ靜岡縣ハ古來帝國東西交通ノ要衝ニ當リ全國無比ノ一大幹線タル所謂東海道ノ貫通スル有ルモ峻嶺大川ノ通路ニ横ハルモノ尠カラス就中大井川ハ昔時ヨリ東海道渡場十三ノ最難所トシテ人口ニ膾炙シ一朝風雨ニ際會スレハ貨客ノ淹留數日ニ亘ルコト稀ナラス行旅渡渉ノ困難由テ以テ知ルヘク一大天險タルヲ失ハサリシナリ明治維新以來文物一新シテ交通機關益々發達セルニ拘ラス本川ハ僅ニ渡船ノ便ヲ有スルニ過キスシテ自動車ノ如キ全ク之ヲ用フルニ由ナク近時ニ於ケル急激ナル道路交通量ノ増加ト交通機關ノ發達トハ國道筋ニ於ケル架橋ノ必要ヲシテ愈々緊切ナルモノア

ルヲ感セシム本縣曩ニ政府ノ認可ヲ受ケ國庫ノ補助ヲ仰キテ縣内國道ノ改修ニ着手シ先ツ東箱根ノ峻坂ヲ理メテ富士安倍兩川ノ架橋ニ及ホシ今次茲ニ天下ノ難所タル本川鐵橋ノ架設ヲ終レリ本橋ハ大正十三年三月ノ起工ニ繋リ爾來當事者ノ勵精ニ由リ工事豫定ノ如ク進捗シテ正ニ其ノ工ヲ竣ル鐵橋ノ延長五百六十間最新ノ器材ト施設トテ盡シ東海道中ノ一偉觀タルヲ失ハス昔時ノ人肩ト近時ニ至ル迄ノ渡舟トヲ顧ミレハ誠ニ今昔ノ感ニ耐ヘサルナリ

惟フニ交通機關ノ整備ハ地方産業ノ開發ト文化ノ發達ヲ促進シ國運發展ノ基調ヲ形成ス本縣國道改良ノ規劃亦時勢ノ進運ニ應シ文化ノ促進ニ資スルニアリ希クハ本橋ト深キ關係ヲ有スル地方人士一層協心戮力シテ本橋ヲ利用シ以テ地方ノ發達ヲ圖リ福利ノ増進ニ努メラレムコトヲ謹ミテ一言ヲ述ヘテ以テ式辭トス

昭和三年四月八日 靜岡縣知事 長谷川久一

祝 辭

一號國道ハ我國重要ノ幹線道路ニシテ之カ改良完成ハ眞ニ地

方ノ開發産業ノ振興ニ關係スル所極メテ深キモノアリ幸ニ縣當局ノ努力ト政府ノ援助トニ依リ箱根坂路ノ改修安倍富士二大川ノ架橋既ニ其ノ功ヲ竣ヘ今亦茲ニ大井川橋ノ架設新ニ成ルヲ見ル寔ニ欣快ニ堪ヘサルナリ

願フニ之ニ依リテ大井ノ難流行路ノ安キヲ保チ駿遠兩國ノ交通ハ茲ニ其ノ面目ヲ一新スルニ至ルヘク更ニ目下施行中ニ係ル金谷日坂間國道ノ改修完成ヲ告ケルニ至ランカ其ノ效果ノ及フ所一層大ナルモノアラシ茲ニ本日ナリテ竣功式ヲ舉ケラル、ニ當リ衷心ノ祝意ヲ表シ併セテ將來之カ管理ニ最善ヲ竭クシ以テ長ク其ノ利益ヲ收メラレンコトヲ望ム

昭和三年四月八日 內務大臣 鈴木喜三郎

祝 辭

大井川橋新設其ノ功ヲ竣ヘ本日茲ニ開通式ヲ舉ケラル邦家ノ爲電ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

願フニ産業ノ振興文化ノ進展ハ交通機關ノ整備ニ資フ所極メテ大ナリ今本橋新タニ精緻ナル工法ニ依リテ架設セラル、ヲ見ル其ノ效果ノ及フ所蓋シ甚タ大ナルモノアルヘキヲ信ス幸ニ天龍濱名ノ兩架橋完成スルニ至ランカ東海道ノ交通ハ更ニ一段ノ利便ヲ進メ地方ノ開發國勢ノ進暢ニ寄與スル所益々多キヲ加フルニ至ラン冀クハ將來之カ維持管理ニ力メ以テ國運ノ發展ト民

人ノ福祉ニ資セラレムコトヲ一言以テ祝辭トス

昭和三年四月八日

道路改良會長 水野 鍊 太郎

### ◎九號國道瀧岡橋竣功式

九號國道は東京市元標（日本橋）から群馬縣高崎市に至るものであつて、瀧岡橋は埼玉縣管内の小山川に架せられたのである。小山川は秩父山系に其の源を發し流路蜿蜒十餘里の間で志戸川、女堀元小山等の流れを併せて大利根に合流して居るのである、式は四月十四日午前十時から小山川の改修竣功を併せ同橋北側の河川敷で盛大に行はれた、當日は朝來の快晴を櫻花滿開殊に半休日ことゝて非常なる人出を見、警察官の交通整理も容易ならぬものがあつた、中央からは鈴木内相代理として岡田河川課長水野道路改良會長代理として都筑幹事、内務省河川課代表として橋本土木事務官等臨場するや官脇知事、林内務部長、中村土木課長縣會議員關係市町村長有力者名譽職等數百名定め席に

着き、齋主の修祓に次で一同起立、降神の儀あり奏樂裡に獻を行ひ齋主、知事、大臣、道路改良會長、縣會議長、關係官吏町村長等玉串を捧げ、齋主祝詞を奏し一同起立の裡に昇神の儀ありて官脇知事の式辭、主任技師の工事報告終るや、岡田内務書記官は鈴木内相の祝辭を代讀し、水野道路改良會長の祝辭は都筑幹事代讀し次で縣會議長關係町村長の祝辭ありて祭壇を祓し、神官眞榊を捧じて先行となり左記三夫婦二組二列となりて進み知事、内務大臣代理道路改良會長代理、内務部長、土木課長、縣會議長、主任技師、内務省河川課代表、縣會議員、縣廳各課代表、關係町村長名譽職の順序により芽出度通り初め式は行はれ午後一時より河川敷内の祝賀會場にて萬歳、三番叟、老松等のいさみ出度き舞樂裡に祝賀會長、知事等の挨拶あり場外にても三臺の大山車は五彩に飾られて囃しゆかしく手古舞、傘踊り、素人角力等に數萬の群衆は歡び勇み夜櫻に灯の映るまで賑ひを呈した、目出度き渡り初め三夫婦の氏名及び知事の式辭、内務大臣、道路改良會長の祝辭は左の通りである。

三夫婦氏名

兒玉郡藤田村大字瀧瀬二百六十四番地

伊藤 久米 吉 嘉永二年九月二十日生

妻 テ イ 嘉永三年十一月八日生

伊藤 利 助 明治十年三月五日生

妻 フ キ 明治十一年十二月二十四日生

伊藤 瀧 雄 明治三十二年十一月二十日生

妻 千 代 明治三十五年九月二十日生

三夫婦氏名

大里郡岡部村大字宿根六十六番地

野口 丹次郎 嘉永五年正月二日生

妻 ふ さ 嘉永六年十一月四日生

野口 新三郎 明治五年四月十八日生

妻 き た 明治十年十月三十日生

野口 敏三郎 明治三十一年十月三十一日生

妻 マ サ 明治三十三年十一月二十四日生

式 辭

小山川改修並國道第九號瀧瀬岡橋改築成ルヲ皆々多數貴賓ノ  
賁臨ヲ辱フシ爰ニ竣功ノ式典ヲ舉行スルヲ得ルハ予ノ最モ欣快  
トスル所ナリ

抑々小山川ハ秩父兒玉大里ノ三郡ニ跨リ流域數千町歩ヲ潤ス  
然リト雖一度豪雨ニ際會セムカ輒チ汎濫ヲ來タシ其ノ慘禍ハ延  
テ福川ノ流域ニ波及シ爲ニ萬頃ノ美田良圃擧クテ泥海ト化シ雷  
ニ沿川地方ノ消長ニ關スルノミナラス實ニ縣勢ノ隆替ニ影響ス  
ル所少シトセス茲ニ於テ乎之レカ改修ノ緊切ナルヲ認メ工費百  
四拾五萬圓ヲ以テ大正九年工ヲ起シ年ヲ閱スルコト九星霜其ノ  
間關係地方諸士ノ援助ト工事當事者ノ精勵トニ依リ今ヤ舊態ヲ  
一新シ河伯ノ暴威張ルニ由ナキ河狀ヲ見ルニ至ル轉々今昔ノ感  
ニ堪ヘサルナリ又瀧岡橋ハ古來仲仙道ノ要衝ニ方リ交通繁滋殊  
ニ重量交通用具ノ利用日ニ増加ノ趨勢ナル現時ノ狀態ニ適合セ  
サルヲ以テ小山川ノ改修ヲ機トシ之レカ改造ヲ企圖シ今ヤ堅牢  
比類ナキ鋼板桁橋ノ竣工ヲ見ル洵ニ歡喜ニ堪ヘサルナリ惟フニ  
小山川改修ノ完成及瀧岡橋ノ新裝ハ將來地方産業ノ開發文化ノ  
向上ニ裨補スル所蓋シ鮮少ナラサルヘキヲ信ス望ムテクハ官民  
相率キテ之レカ愛護ニ努メ益々地方福祉ノ増進ニ寄與スル所ア  
ラムコトヲ一言述ヘテ式辭ト爲ス

昭和三年四月十四日

埼玉縣知事 宮脇 梅吉

祝 辭

小山川改修並灌岡橋架設工成リ本日茲ニ竣功式ヲ舉クルニ遭

フ

仰々河川ノ利ハ灌漑運輸ニ在リ其ノ産業ノ發達振興ニ關係ヲ有スル極メテ大ナルモノアリト雖モ時ニ出水ノ爲人命財産ヲ損傷シ國土荒廢ノ災危ヲ招來スルコトナキニアラス古來治水事業ヲ以テ治國ノ要道ト爲セルモノ蓋シ故ナキニアラサルナリ小山川ハ利根川ノ重要ナル支川ニシテ千有餘町歩ノ沃野ヲ貫流シ其ノ利ノ及フ所少カラサルモ無堤ノ爲歲次出水ノ害アリ改修工事ノ施行ハ實ニ關係地方ノ多年要望シテ已マサル所ナリキ今ヤ利根川改修ト相俟テ本川ノ改修亦其ノ功ヲ竣ヘ沿岸地方ノ水害茲ニ除去セララル、ニ至リ更ニ灌岡橋ノ架設ニ因リテ交通運輸ニ一段ノ利便ヲ加ヘ兩者相俟ツテ益々産業ノ振興ニ寄與セララル、ニ至レルハ邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ冀クハ官民諸氏一致協力克ク之カ維持管理ニ努メ以テ長ニ本事業ノ效果ヲ完フセラレンコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年四月十四日

內務大臣 鈴木喜三郎

祝 辭

衆 報

九號國道灌岡橋改築功ヲ竣ヘ本日茲ニ竣功ノ式典ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

九號國道ハ東京市ヨリ高崎市ニ至ル重要路線ニシテ小山川ノ改修ニ當リ本橋亦改築セラレ面目茲ニ一新ス念フニ之ニ依テ地方交通ノ利便ト産業ノ發達ニ資スル所蓋シ尠少ナラサルヘシ今ヤ道路改良ノ機運各地ニ蔚興シ路政著々改善ノ域ニ向ヘルヲ見ルハ眞ニ欣快トスル所ナリ茲ニ本日盛式ニ當リ一言ヲ述テ祝辭トス

昭和三年四月十四日

道路改良會長 水野 鍊 太郎

### ◎清水靜岡間新國道起工式

工費二百五萬圓、四ヶ年繼續事業

壹號國道清水靜岡間新國道起工式は四月二十二日の午前十時から靜岡市東町新國道敷地で雨天ではあつたが盛大に舉行された、當日は折悪しく風雨が強かつたけれども長谷川知事、高橋內務部長、金森警察部長、吉岡土木課長以下各縣會議員靜岡清水兩市長、豊田有度兩村長其他名譽職有志等數百名參列、中央よりは鈴木内相代理として武井事務

官、水野道路改良會長代理として都筑幹事其他岩澤内務技

師、須山内務技師、友末内務官等臨席され、三發の號報轟く

や嚴かなる神官の祭詞によりて神壇は設けられ型の如く山

海のみけみけを奉つり祭主知事以下玉串を捧げ次で長谷川

知事は神官より鍬を受けて、本工事起工の鍬入を行ひて神

事を了し別項記載の知事式辭、内務大臣祝辭(武井事務官代

讀)、道路改良會長祝辭(都筑幹事代讀)、宮本縣會議長、山

田清水市長、小島靜岡市長、服部豊田村長、井上宥度村長、須

山築港技師、鈴木清水市會議長等の祝辭ありて十一時五十

分閉式、直ちに一同自動車或は電車に分乘して狐ヶ崎遊園

地なる翠紅亭の祝賀會に向つたが折悪しく風雨益々烈しく

種々の催しも意の如くならず來賓には入浴を勧めて衣裳を

乾かす等主催者側苦心の様子は聊か氣の毒であつた、その

夜佐野春に於ける慰勞會の終る頃には雨雲も途切れて往來

の人々も明日は好天氣であらうと語りあつて居たが果して

翌日は快晴であつた古語に雨降つて地固まるこいふことも

あるから本國道は此金言通りに成功することであらう。知

事の式辭内務大臣、道路改良會長の祝辭は左記の通である。

式 辭

本日清水靜岡國道改築工事起工式ヲ舉行スルニ當リ多數諸

賢ノ貴臨ヲ辱フシタルハ誠ニ光榮トスル所ナリ抑々本國道ハ靜

岡清水ノ兩都市ヲ連繫スル要路ニシテ人馬ノ往來物質ノ輻輳常

ニ頻繁ヲ極ム然レトモ道路ハ往昔ノ所謂東海道ニシテ屈曲部多

ク又句配ヲ存シ加フルニ鐵道ト交叉スルコト四箇所近時ニ於ケ

ル都市ヲ連絡スル交通路トシテバ不便尠カラズ之ガ改修ノ必要

ナルヲ痛感スルヤ既ニ久シ本縣曩ニ東海ノ良港タル清水港ノ修

築ヲ企テ持掘工營ヲ進メテ竣工方ニ近キニアリ靜岡市亦近時異

數ノ發展ヲ遂ケ製茶及各種物質集散ノ中心タラントス本縣風ニ

此ノ趨勢ヲ察シ清水靜岡國道改築ノ計畫ヲ樹テ大正十四年通

常縣會ノ協賛ヲ經タリ爾來着々準備ヲ進捗シ茲ニ起工ノ式典ヲ

舉行シ靜岡驛ヨリ江尻驛ニ至ル延長二里二十九丁ニシテ總テ時

代ニ適應スル新技術ヲ以テ設計シタリ

本國道成ルニ至ラハ能ク時勢ノ進運ニ應シ文化ノ促進ニ資ス

ルコト偉大ナルヘキヲ信ス其ノ局ニ當ル者能ク協力以テ本

道路ノ工營ニ最善ノ努力ヲ盡サンコトヲ望ム謹シテ一言ヲ述ヘ

以テ式辭ト爲ス

昭和三年四月二十二日

静岡縣知事 長谷川久一

祝 辭

茲ニ本日ヲ以テ一號國道静岡清水間改築起工ノ式典ヲ舉行セラル

抑々地方ノ開發産業ノ振興ハ交通機關ノ整備ニ依ルモノ極メテ大ナルモノアルハ言ヲ俟タス縣當局深ク思フ此ニ致シ夙ニ道路改良計畫ヲ樹立シテ官民協力ノ下ニ銳意遂行ナ期シ政府亦之カ事業ヲ助勢シ今ヤ計畫ノ大半ハ粗ニ其ノ實現ヲ見ムトスルトキ更ニ進テ静岡清水兩市間ノ改築ニ着手セラレントスルハ寔ニ欣快ニ堪ヘサルナリ

念フニ本區間ノ改築ハ兩市ノ發展ニ偉大ノ效果ヲ齎スヘク殊ニ近ク竣功セムトスル清水港ノ改築ト相俟テ今後産業ノ發達ニ資補スル處大ナルモノアルヘシ冀クハ相牽テ最善ノ努力ヲ竭シ以テ之カ竣功ナ期セラレムコトナ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年四月二十二日

内務大臣 鈴木喜三郎

祝 辭

國道一號清水静岡間改築準備成リ本日起工ノ式典ヲ擧グルニ至レルハ邦家ノ爲洵ニ欣幸トスル所ナリ

本區間ノ改築ハ清水築港ノ竣成ト相呼應シテ水陸交通上至大ノ利益ヲ齎シ地方ノ發展ニ資スル所大ナルモノアラム冀クハ最善ノ努力ヲ以テ之カ完成ナ期セラレントナ起工式ニ際シ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年四月二十二日

道路改良會長 水野 鍊太郎

### ◎武井群嗣氏著

#### 「道路及道路交通」の紹介

本會の幹事である内務事務官武井群嗣氏は、今回土木行政要義の第一編として「道路及道路交通」を著述された。

道路行政の目的とするところは、唯だ道路を施設することの物的設備だけではなく、道路交通の利便を増進して其の運賃を軽減し産業の振興文化の進展に資するこゝの範圍にまで及ばなければならぬといふのは、氏所論の見地であつて、本書も亦其の見地に則つて書かれてゐる、従つて道路のこゝは勿論、自動車道を始め軌道無軌條電車自動車の



ことに論及されてゐる。

道路法に關して氏の造詣の深いことは世既に定評の存するところであつて贅言を要しないが、最近我が路政界に問題と爲つてゐる自動車道に關して詳論されたことは吾人の頗る多とするところである、行文の流暢なことは氏の特意とする所で難解の點を平易に判り易く解説されたことは、道路及道路交通の問題を特殊範圍の人——に限るべきなく

所謂之を民衆化する上に於て貢獻する所大なるべきものであるを思ひ之亦徳とする所である。唯だ氏の所謂道路の政治乃至經濟的價値に言及されてゐる點が尠いやうな感が無いでもない、併しながら夫は道廳行政に従事し又は従事せんとする者には餘り直接の問題でないので省略されたのであらう、兎に角我が路政界に權威のある著書として江湖に推賞する（田中幹事）